

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	認知症高齢者グループホームゆうしん Bユニット	評価実施年月日	平成21年11月1日
評価実施構成員氏名	渡辺由美子 工藤公洋		
記録者氏名	渡辺由美子 工藤公洋	記録年月日	平成21年11月17日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「家族のような暖かな雰囲気、信頼のおける健康、生活環境の中の笑顔あふれる人生を共に創造する。」と掲げています。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に玄関前廊下に提示し、いつでも職員が目に見え意識し理念に基づいてサービスを提供するよう心掛けている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族の方々を通じ他面会者、見学者への理念及びサービス内容等を公表している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>藤崎整形外科クリニックに来院されている患者様や隣のコンビニには日常的に買い物等で利用している為気軽に挨拶している。</p>	○	<p>今後は、積極的に町内会や他施設の行事にも参加しより広範囲における地域との関わりをしていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の方々との積極的な交流は行っていない。</p>	○	<p>町内会長及び民生委員に町内の催し物等の案内をお願いすると共に他施設への行事の参加も積極的に行っていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>見学者、ご家族等相談があれば直ぐに取り組む事になっている。</p>	○	<p>入居希望に限らず介護などの相談ができることもPRしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年、自己評価を行い質及びサービス向上に努めている。外部評価の改善点は理解しているが目に見える改善はできていない。	○	不足している質及びサービスの改善に取り組んでいきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を実施していない。	○	早急に継続的に運営推進会議を実施し、外部の意見、評価を積極的に受け入れサービスの改善に取り組んでいきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	日常的に市担当者と連絡を取り、情報の交換等を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見人制度の研修参加やユニット会議においても勉強の機会を設け人権擁護について取り組んでいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待・身体拘束防止マニュアルを職員が直ぐ見られる場所へ設置し職員間でも注意をはらっている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	運営規定、重要事項説明書などを細かく説明し、納得を得て契約を結んでいる。解除時にはなるべく入居者の状態に合った最前の方法を説明し、入居者、家族に納得を得た上で退去されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時には契約書の第10条に記載されており、詳細については、重要事項説明書第8条により説明しています。玄関前には苦情受け付け窓口を設置し、何時でも意見できるようにしている。	○	会話の中で不満、不安を聞き出しているが、運営に反映されていない。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	入居者の日々の暮らしぶりや健康状態については、面会時必ず報告している。体調の急変時には直ぐに連絡を取っている。また、職員の移動については面会の都度報告しているが、面会の少ない家族への連絡は定期的に行われていない。	○	面会の少ない家族への報告も定期的に行っていききたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時には契約書の第10条に記載されており、詳細については、重要事項説明書第8条により説明しています。玄関前には苦情受け付け窓口を設置し、何時でも意見できるようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回のユニット会議、毎朝の申し送りにて意見や提案を随時聞いている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応をするため必要な時間帯には、必要な人数を配置できている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員採用の際には入居者には直ぐに報告している。家族へは面会時に報告しているが、面会の少ない家族へは連絡出来ていない。退職時も同じである。	○	職員の採用・退職時はなるべく家族へ報告を入れる。入居者については退職時に限り状況を見ながら報告したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各研修会になるべく参加し、利用者へのサービス向上に努めている。	○	職員の育成に努めるため、管理者・計画作成担当者だけでなく、全職員が参加していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会に加入し、勉強会などにも積極的に参加している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	退職した職員の補充は、なるべく早く補充している。その他ボウリング大会や忘年会などを開催し軽減を図っている。	○	職員のストレスを軽減させる工夫や環境の整備に取り組んでいきたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の勤務状況等は、管理者から運営者に報告している。また、職員の業務内容の相談などは聞く体制を取っている。	○	職員の向上心を養うために環境の整備に取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用に至るまでに介護事業者から情報を収集し必ず訪問するようにしている。また、本人から要望や意見を聞き精神的負担の軽減に努めている。なるべく入居前に施設の見学をお願いしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用に至るまでに介護事業者から情報を収集し必ず訪問するようにしている。また、本人から要望や意見を聞き精神的負担の軽減に努めている。なるべく入居前に施設の見学をお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行い直近の課題を抽出し、必要な支援を行っている。しかし、まだ支援内容の充実には至っていない。	○	センター方式のアセスメントを取り入れ、入所者本人のニーズと要望を把握してより一層ケアプラン及びアセスメントの充実を行って行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の生活歴、趣味、嗜好等を入所前に行われていた介護などを、考慮しながら工夫しており、なるべく本人に入所前に見学をして頂くようにしている。また、入居時は1週間位は落ち着かない状況があるので、環境などをもう一度考え直す必要がある。	○	体験利用的な事も今後考えて行き、詳細なアセスメントを行い精神的負担を軽減させたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人とコミュニケーションを取りながら、お互いが理解しあい共に生活出来る関係が出来ているが、まだ職員が一方的に献立や行事の計画をしているので、入居者の意見をたくさん取り入れていきたい。	○	すべての日常生活に入居者を交えて、話し合いながら欠けているので今後は何事でも意見を聞いて行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共に本人の支援を検討し、状況が変化した時は随時報告、再度家族と共に検討する様に努めている。又、本人がよりよい生活を送れるように人間関係も築かれている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族と本人の過去の生活歴などを把握し、ケアに結びついている。特に入居時には誤解が生じないように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人との面会を継続し、外出や外泊の支援を行っている。本人との会話のなかで馴染みの人や場所を取り入れて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者が何時でも利用出来るホールでの日常的な交流がある。入居者同士の関係に配慮しお互い明るく生活して頂けるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後でも、家族と連絡は取っている。また、居宅支援事業所とも連携しながら間接的に関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を基に、暮らし方への要望等を把握するよう努め安心して生活できるよう支援しているが、入居後新しい情報を得ることがあるので、時間をかけなければいけない。	○	入居者本人の要望、家族などから沢山の情報を得て、「センター方式のアセスメント」の充実を図っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活環境、病前性格、サービス利用の経過等アセスメントに十分な時間をとり支援している。	○	センター方式のアセスメントを職員みんなで情報を家族及び本人より聞き新しい情報を得た都度、どのように実行していくか考えていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別記録に一日の過ごし方を記入、心身状態の変化等を現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成にあたっては、入居者、家族よりアセスメントを行い、課題とケアの方向性を検討、その上で入居者、家族、各関係者と話し合い作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランに期した期間に応じた見直し、区分変更等状態の変化に応じた見直しを実施している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入、各職種が共有し、状態の変化により介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の要望、状況に応じ、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の際、入居者の趣味に合わせたボランティアの参加を実施している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の介護事業者との情報交換は密に行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、地域包括センターと協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診、協力医療機関の馴染みの看護師の派遣もあり、日常的健康管理を行っている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>心身の状況に応じ、協力医療機関への相談、早期の治療を受けられるよう支援している。</p>	○	<p>相談しやすい環境と連帯体制を築いていきたい。</p>
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>隣接している藤崎整形外科の看護師と入居者は馴染みの関係であり相談しながら健康管理を行っている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時は必ず職員が同行し、病院関係者と連携し安心して過ごせるよう努めている。また、病院相談員等居宅支援事業者と連絡を取り情報交換を行っている。</p>	○	<p>入院中から考えうる状態の変化の把握が出来る連携体制の強化。</p>
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>急変時には早急に主治医に報告し同時に家族連絡をとり状態の報告を入れる。必要に応じ主治医と家族との面談の調整をおこなっている。</p>	○	<p>不安を早期解消できる援助方法、本人及び家族への必要以上の不安を与えない連絡方法。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>一部の家族からの意見のみで終わっているため、今後チームで取り組んでいきたい。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	退居時は居宅支援事業所に生活環境、本人の要望を連絡し住み替えによるダメージを図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	礼儀正しく、ある程度の距離のある言葉での声かけでコミュニケーションを図ったほうが円滑な方と、砕けた言葉使いで対応したほうが円滑にコミュニケーションを図れるかたがいる。尊厳を守る事には変わりなく配慮している。		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	ストレートな希望や会話より、希望を読み取り本人自身による納得・決定ができるよう説明を行った上で支援している。	○	会話の時間を別途持つ。個々の能力に合わせた対応を決めスタッフのケアを統一する。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	体操や入浴、食事等職員ペースで行わず声をかける際も本人が決定できるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	外出でき、お金の管理が出来る方は今まで利用していた美容院へ外出している。定期的な散髪や毛染め等のサービスを提供している。衣類は本人の趣味に合わせ家族が購入している。		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	入居者様より好みのものを伺い、メニューに反映させるとともに食事の残し具合や味を聞きだしメニューの変更も行っている。入居者みんなで食器拭きもおこない会話の弾む時間にもなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物、おやつ等本人の嗜好に合わせた物を提供している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	昼夜共に排泄パターンのデータをとりトイレでの排泄ができるよう支援している。体調により紙パンツを使用した際もプライバシーに配慮し支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の体調が悪くない限りは希望日、希望時間で入浴され、状態に応じ入浴介助を行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣を理解し本人の安心、安楽、安全を一番に考え支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴より得た情報より、会話の中に取り入れ入居者様へ楽しみ、安心感を与えたコミュニケーションを図っている。個々の能力にあった分担し、活気ある生活が送れるよう努めている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が管理可能な少額の金銭を所持している。買い物の際も極力見守りしほんにんが選び購入出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩等希望に合わせ外出支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別対応での外出支援は行えているが近隣のみでの外出であるため普段行かない場所への支援は少ない。	○	入居者様との会話の中より行きたい場所を聞きだし遠方であれば行事に取り込んでいきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望により電話をかけたり知人、家族からの電話を本人へ繋ぐよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者訪問時は自室及びホールなど自由に過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを準備しケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関はチャイムを設置し開けた場合は鳴るようにしているが、施設前は車両の通行があるので施錠している。居室は施錠していない。	○	正面玄関は安全確保の為、施錠しているが今後については検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士の声かけにより入居者の所在、様子を把握し居室への出入りはノックし不在時の出入りは本人への許可を得た上で訪室するなどプライバシーに配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人の希望によりリスクがない限り管理している。BPSDが見られるに対しては環境の整備をおこない危険をとりのぞくよう支援している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	考え得る事故や急変状態を学習し的確な処置及び事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	現在、救命救急講習受講修了者が数名。	○	早急に全職員の受講を検討する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時、緊急時のため連絡網を作成し定期的な避難訓練を実施しており地域への協力を依頼している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時、定期的な電話連絡時、個々のリスクについて説明し家族の方々への協力の下思いのまま生活できるよう話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ユニット単位で管理者リーダーを中心にバイタルチェックや表情、声かけにより入居者特変時、ミーティングや申し送りによる徹底した情報共有が行われている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方内容を個別に保管し、服薬支援を行い症状が急変した場合は藤崎整形外科クリニックの看護師へ連絡し対応する体制をとっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防のため、繊維が多い物を食事に取り入れるよう工夫し、毎朝継続的体操を行い日常生活動作も極力見守りとしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、入居者に応じた口腔ケアを行い、清潔保持が成されている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者個々の食事量、水分量に応じたバランスの取り入れた食事を提供している。状態に応じた形状にし摂取しやすいよう工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者全員のインフルエンザ予防接種の実施、施設内は加湿器の導入で乾燥を防ぎ湿度を上げることによりウイルスの活動を止める。乾燥予防マニュアルによる予防対応に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理後都度調理用具の消毒を行っています。食材は一週間に二回買い物に行き鮮度の高い状態で		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前はスロープが設置されており、]またスロープ右手にはガードレールがあり、手すりとしてしようできます。左手には、入居者、スタッフと共に世話をしている畑があり楽しむこと画できます。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	共用空間で居心地良く過ごしていただけるよう配慮して支援しています。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食事テーブル席、ソファ、どこに座ってもTVを視聴できるように配置し、座席の配置も円状にしている為、入居者同士思い思いに顔を合わせ、コミュニケーションをはかることができている。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室はご家族と]相談の下、なじみの家具や日常生活品を用意していただき、心地よく過ごしてもらおう努めている。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	ホール、居室の換気は、入居者に協力して戴き、定期的に行なっている。温度調整は、気温、天候によりボイラー、エアコンを使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>・危険防止のため、動線上は無駄なものは配置せず広い空間を作るようにしている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>・家事、炊事等、生活に関する智恵、技術を入居者より教えていただき、共に行なうことにより、混乱や失敗を早期に気づき、自立に向かうよう支援できている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気のいい日はベランダでおやつを召し上がったり夏期の行事もバーベキューを行ったりと積極的に利用。</p> <p>・各ユニットに畑があり植物の世話を楽しまれている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

隣接している藤崎整形外科クリニックとの医療提携により、入居者特変時の早期発見、早期治療が徹底されており、より健康に留意した生活を送ることができます。また、定期的の行なわれているリハビリによりADLの維持、向上が図られ、グループホーム内での生活の活気、質もより宵ものが継続できています。スタッフも地域に馴染みのあるものが多く、入居者とのコミュニケーションの話題も広く持つことができ、個別ケアにおいて、こうに信頼関係の下、実施されています。